

令和6年度 県立霞ヶ浦聾学校 自己評価表

No. 1

目指す学校像	<p>◆安全・安心な環境のもと、楽しく元気に学べる学校</p> <p>◆一人一人の学びを大切に、豊かなコミュニケーションと日本語の力を育み、生きる力を育てる学校</p> <p>◆幼児児童生徒、教職員みんなが自信と誇りをもてる学校</p> <p>◆保護者、社会、関係者と共に歩む開かれた学校</p>		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>〈成果〉</p> <p>・定期的に初期動作訓練や避難訓練を行い、災害時の行動に対する教職員、児童生徒の意識が高まった。校内の環境や災害時等のマニュアルについて、阿見町の危機管理課や警察署（スクールサポーター）から具体的な助言の下、見直し、改善を行った。</p>	<p>1 安全安心、清潔で整備された学校づくりと心身共に健康な幼児児童生徒の育成</p>	<p>① 安心安全な教育環境の整備 【危機管理】</p> <p>② 自ら健康・安全に生活する力の向上（健康教育、防災教育） 【自己管理能力の育成】</p> <p>③ 信頼し絆を深める人間関係づくりの推進 【豊かな心の育成】</p>	B
<p>〈課題〉</p> <p>・様々な事故や災害を想定し、安全な教育環境づくりに取り組む。振り返りの結果を家庭と共有、連携した支援が必要である。</p> <p>〈成果〉</p> <p>・学校生活全般において、自分の気持ちや考えを伝え合う方法を確認しながら、コミュニケーション能力を培うことができた。タブレット端末や視覚教材を活用し、考えや気持ちを適切に表現し、伝え合う力を育むことができた。</p>	<p>2 聴覚活用とコミュニケーション力の伸長による確かな日本語の育成</p>	<p>① 個に応じたコミュニケーション手段の活用の推進 【伝え合い、分かり合う喜び】</p> <p>② 日本語による「読み」「書き」能力の向上 【確かな日本語の習得】</p> <p>③ 情報を正しく理解し、適切に表現する力の育成 【豊かな表現力の育成】</p>	B
<p>〈課題〉</p> <p>・音声や手話での学びや情報保障について、幼児児童生徒の実態や場に合った方法で指導する。生活全般において、言語環境を整えるとともに、言葉を育てる支援を工夫する。</p>	<p>3 基礎・基本の定着と確かな学力の向上を目指す授業づくり</p>	<p>① 専門家と連携した「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善 【授業改善】</p> <p>② 個別最適な学びを重視した効果的なICT活用の推進 【ICT活用】</p> <p>③ 社会参加に向けた教育活動全体を通じたキャリア教育の推進 進路指導の充実 【キャリア発達、進路指導】</p>	B
<p>〈成果〉</p> <p>・学校研究テーマ「主体的・対話的な学びを目指して～聾学校の専門性を活かした個に応じた指導のあり方～」の下、各部の課題に基づいて授業改善に取り組んだ。幼児児童生徒が主体的・対話的に学ぶ姿をイメージし、指導支援に取り組み、確かな学びの力に結び付いた。</p>	<p>4 地域社会と連携した開かれた教育活動と専門性を活かした地域の特別支援教育の充実</p>	<p>① 経験を広め、豊かな人間性と社会性を養う地域と連携・協働した学習活動、交流及び共同学習の充実 【地域とともにある教育】</p> <p>② 早期教育相談、通級指導教室の充実 【聴覚障害教育の保障】</p> <p>③ 幼児教育施設、小・中学校等に在籍する聴覚障害児や担当教員への支援 【専門性を活かした支援】</p>	B
<p>〈課題〉</p> <p>・ねらいに応じた効果的なICT活用。</p> <p>〈成果〉</p> <p>・居住地校交流、学校間交流、地域交流を通して、様々な人とかかわり合う力を育成できた。</p> <p>・子供の聞き取りや行動を保護者と共に考えることで具体的な支援につながった。（早期教育相談）</p> <p>学習形態、活動内容の工夫により、言語的な活動ができた。保護者や在籍校と情報共有し、支援することができた。（通級指導）</p>	<p>5 信頼される学校づくりと働き方改革の推進</p>	<p>① 服務規律の遵守とコンプライアンス意識の向上 【コンプライアンス】</p> <p>② 教職員一人ひとりのWell-beingを働き方改革 【働き方改革】</p>	B

<p>・一般の幼稚園、保育園、小中学校に在籍する幼児児童生徒への細やかな支援ができた。</p> <p><課題></p> <p>・本校につながっていない小中学校に在籍する聴覚障害のある児童生徒への支援の検討。</p> <p><成果></p> <p>・定期的なコンプライアンス研修により、様々な事案を教職員一人一人が自分のこととして捉え、考えることができた。</p> <p>・クラスルームの活用による教職員間の連絡、情報共有、定時退勤日の設定（週1日）</p> <p><課題></p> <p>・コンプライアンスブックの作成・活用。</p> <p>・授業づくりの時間確保を最優先とし、業務の見直し、削減を進める。</p>						
評価項目	具体的目標	具体的方策		重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
<p>学校経営 管理 教育計画</p>	<p>・幼児児童生徒、保護者、地域等から信頼される安全安心な学校づくり。</p>	<p>・幼児児童生徒の実態を十分に配慮した細かな視点を取り入れた安全点検を実施し、対応する。</p> <p>・児童生徒の視点で危険な場所を見つけるなどの安全点検を行う。</p> <p>・外部関係者との連携による校内巡視、様々な災害を想定した危機対応マニュアルを見直し、シミュレーションを行う。</p>		<p>1-①②③</p>	<p>B</p>	<p>○幼児児童生徒の実態や学校設備の状況を把握し、教職員が新たな視点を持ち、安全点検に取り組んだ。</p> <p>○災害等の避難訓練の様子や実施後の児童生徒へのアンケート結果を家庭と共有することで、自己管理能力の育成につながった。</p> <p>○外部関係機関と連携した避難訓練、マニュアルの見直しを行った。</p> <p>●緊急時の教職員の動きについて、全職員が基本を確認した上で臨機応変に対応ができるようにする。</p> <p>◇今後も安全点検、家庭や外部関係者と連携した実践的避難訓練やマニュアルの見直しを行うことで安全な学校づくりに努める。</p>
<p>教職員の 育成及び 指導・監督</p>	<p>・幼児児童生徒一人一人に応じたコミュニケーション力の伸長、基礎</p> <p>・基本の定着と確かな学力の向上を目指した授業づくりの推進。</p>	<p>・幼児児童生徒の学びの姿を想定した授業改善、システムづくりに取り組む。</p> <p>・各部の研究成果を、実践検証しながら授業改善のシステムに組み込む。授業参観を実施し、意見交換をすると共に聴覚障害以外の障害を有する幼児児童生徒の実態把握に基づく指導支援を検討、実践する。</p> <p>・教職員、児童生徒（「できた」「わかった」「もっとやりたい」の視点）のアンケート実施。</p>		<p>2-①②③ 3-①②③</p>	<p>B</p>	<p>○全校研究テーマの下、各部テーマを設定し、授業づくりに取り組んだ。各部の課題が明確になり、外部講師から指導助言を受けることで、より教職員の授業力の向上につながった。</p> <p>○外部専門家の活用により、幼児児童生徒の聴覚活用、ことばの育ちや発達について、理解が深まり、指導、支援につなげることができた。</p> <p>●各部の取組について情報を共有する機会が少なかった。</p>

					◇次年度は、「教科学習等を支える言語力、思考力の育成」を全体テーマとし、聾教育の基本を押さえ、授業づくりの観点を整理しながら、授業改善に取り組む。相互に授業参観する時間を設定し、各部の取組を知る機会とする。
対外活動	・保護者、地域、関係機関等と連携し、地域とともにある社会に開かれた学校づくりの推進。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校連絡協議会において本校の現状や課題の提示と具体的な対応策の検討、実施。安全安心な学校づくり、地域と連携・協働した授業づくりに向けて) ・HP や広報誌を通して、本校の取り組みを広く発信するとともに、地域の情報を収集し、地域や関係機関等とのつながりを築く。 ・各部の地域資源を活用した授業づくり、年間指導計画を再考する。 	4-①②③	B	<p>○学校運営協議会において、本校の現状や課題を示すことで委員の方々から、具体的な案をいただくことができた。多くの方々との繋がりができ、次年度に実践できる具体案を検討できた。</p> <p>○実毅ふれあいフェスタ、作品展、学校公開、HPを通して、本校の情報発信ができた。</p> <p>●本校の子供達が直接、参加できる機会が少なかった。</p> <p>◇次年度の年間指導計画検討にあたり、教職員が子供達の指導、支援のねらいに沿って、必要な活動に取り組めるようにする。</p>
コンプライアンス確保	・風通しのよい職場づくり、教職員の日々の服務規律の遵守とコンプライアンス意識の向上。	<ul style="list-style-type: none"> ・服務遵守に関する情報発信、研修を実施し、教職員一人一人の服務規律確保、コンプライアンス意識の向上を図る。 ・互いの意見を尊重し、質問責任、説明責任を大切にする職場環境づくり。本校独自のコンプライアンスマニュアルを作成、活用し、教職員一人ひとりが日々、コンプライアンスを意識できるようにする。 	5-①	B	<p>○少人数での意見交換を中心とした研修を継続することで、教職員一人一人が様々な事案に向かい合い、自分事として捉えることができた。</p> <p>実施した研修内容や教職員からの意見を取り入れたコンプライアンス・マニュアルを作成、活用することができた。</p> <p>●活用を通してのコンプライアンス・マニュアルの見直しが必要である。</p> <p>◇全教職員が自分自身とお互いを大切にできる職場づくりを目指すとともに、一人一人がコンプライアンスを意識できる研修を継続する。</p>
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間の働き方（業務内容）を見直し、時間外在校時間月 45 時間以内、年間 360 時間以内とする。 ・授業づくりの時間を確保するとともに効率化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務内容や要する時間のデータを基に意見交換を行い、本校の働き方の課題を明確にする。現在、次年度に向け、改善点、具体的な方法を見出し、実施する。 ・授業準備や評価の具体的な方法や教材について情報交換し、共有することで授業づくりの効率化を図る。 	5-②	B	<p>○全教職員時間外在校時間月 45 時間以内、年間 360 時間以内、100%。</p> <p>●行事や授業研究会が重なり、業務過多の時期があった。多くの教職員が一人で授業を担当しているため、授業準備の時間を要している。</p> <p>◇本校の教職員の働き方を客観的に捉え、具体的に実践できる研修を実施する。教材を共有できる取組を更に広げる。</p>

ICT活用	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児児童生徒の言語獲得、活用、コミュニケーション力を伸長する、個別最適な学びのためのICT活用を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児児童生徒の学習や生活課題に即したICT活用を推進する。 ・児童生徒の言語に関する実態を十分把握する。ICT活用の課題に基づき、言語の意味を正しく理解し、活用できるため指導支援を共有、実践する。 ・児童生徒、教職員へのアンケートを実施する。（学習への意欲、成果） 	3-②	B	<p>○幼児児童生徒の言語力の育成のために、実態やねらいに応じて、ICTを活用することができた。</p> <p>●ICTを活用して得た情報について、正しく理解、活用できているのか、その都度、確認が必要である。</p> <p>◇言語力を育むための基礎的な内容を受け、幼児児童生徒の実態を十分に把握した上でICTを活用した指導、支援に取り組む。</p>
-------	---	---	-----	---	--

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない